



働く仲間の力で震災支援を

震災口実の攻撃許さず

第82回メーデー

5月1日(日)、雨も予想された曇天の中、大震災後初めてのメーデーである「第82回日比谷メ

デー」に、文京支部の一員として参加してきた。オープニングのプラジルサンバ隊に元気づけ



石川旗手を先頭に、強風にも負けずデモ行進する文京支部

任長	任部	掃合部
委員	責伝	清組支
行集	育宣	京働京
発執	編教	東労文
2011年05月20日 第82号		

られながら、集会の開会を迎えた。冒頭、「福島原発事故」をめぐり予断を許さない状況が続く中、甚大な被害をもたらした東日本大震災の犠牲者を悼み、全参加者による「黙祷」が行われた。様々な諸団体・諸個人

皆が団結へ

メーデー当日、天候が心配されましたが、幸い雨も降ることなく行なわれ、久しぶりに私も参加させていただき、参加者が一体となり会場も盛り上がりを見せました。

特に催し物においてサンバダンスの披露の時には、女性ダンサーに会場の皆さんが熱い視線を送っていました。とくに私のとりの撮影係りの方は、熱を入れてシャッターを切っておりまして。そうした楽しい時間も

から、厳しく困難な状況下での多様な闘いが報告され、「震災を口実とした首切り・賃下げ・リストラを許さない」という決意が示された。

とりわけ、震災復興支援財源創出を口実とする国家公務員賃金10パーセント削減案は、許せない大きな攻撃である。

また東京清掃は、本部に震災支援対策本部を設置し、4月から5月にかけて3次にわたって、各支部が震災支援に参加し

た。わが支部からも、第3次隊として荒木(健)・白山・佐藤(国明)・島崎・矢島の5名が参加し(文京区としてはプラス3名計8名が参加)、一週間に及ぶ困難な災害支援派遣業務に従事した。

巨大地震、大津波、そして原発事故と続く緊迫する情勢の下、ますます働く仲間が力を合わせる事が大事だと、改めて実感した「働く者の祭典・メーデー」であった。【副委員長・高津城行】

はさらに団結し、安心して働ける雇用状況を確保できるよう努力をしいかねばならないと痛感いたしました。

これから皆様も皆様が団結し安心して働ける職場を目指して行きましょう！【伊藤和正】

久しぶりの参加

第82回日比谷メーデーに参加しました。私にとっては久しぶりのメーデーでしたので、新鮮な気持ちで臨んできました。例年だと汗ばむくらい

さかみち



不幸のどん底にありながら、人は困っている人に手を差し伸べる。人々は喜々として自分のやれることに精を出す。見ず知らずの人間に食事や寝場所を与える。知らぬ間に話し合いのフォーラムができる：▼『災害ユートピア』なぜそのとき特別な共同体が立ち上がるのか(レベッカ・ソルニツト著) (亜紀書房) という書籍帯書の一節である▼同書は大震災以前、昨年2010年12月末に出版され、外国の災害事例が対象だが、ポスト「3・11フクシマ」の世界を生きる我々にとっても、示唆に富んだ内容となっている。【T】

陽気になる筈なのですが、今年は世相を反映するかの様に、時たま強風の吹く曇り空でした。3・11に起きた東日本大震災によってもたらされた甚大なる被害、および公務員の賃下げ等々

と、問題は山積ですが、地に足をつけみんまで協力し前にある壁を乗り越えていかなければならないと、今回のメーデーに参加して改めて思いました。ともに頑張りましょう！【星光秋】